台湾視察報告

令和６年７月27日～30日

神戸市会台湾訪問団

屏東県政府表敬訪問

台湾南部に位置する屏東県政府を表敬訪問した。
訪問数日前、台風3号が台湾に上陸し、163ヶ所で冠水し、28日午前までに42名のケガが報告されている。空港より屏東県に移動する車窓からは、強風で無惨にも薙ぎ倒された木が、所々より目に入ってきて、台風の恐ろしさを目の当たりにした。

農業被害も台湾全体で3億6503台湾ドル「約17億円」に達すると集計されており、2009年8月に1100億台湾ドル「約5182億円」規模の被害を出した。
「Morakot」以来最悪の被害状況であり、我々神戸市議団一行は、周春米県長と面会をし、この度同県にもたらした被害に心を寄せ、お見舞いの言葉を申し上げ、阪神淡路大震災から神戸市が復興した際の経験を共有した。台湾と日本の揺るぎない信頼関係と今後もその絆をさらに深めていこうと誓い合い握手をする。
上畠議員からは、4年前のコロナ禍では、いち早く屏東県より、神戸市にマスクを送ってくださったことへの謝辞を述べ、引き続き、両者の友情を育んでいき、経済・農業・学術・議会の交流を深めていきたいと申し上げた。
今回の訪台は、視察と第10回日台サミットの参加が目的です。

知事
サミットは大変重要なイベントである。前県長の潘文安氏が大統領に代わり出席すると聞いている。ご盛会を祈念する。

植中議員
女性初の知事ということで、女性が活躍推進に皆が期待をしているところである。
取り組みについてお聞かせ願いたい。

知事
屏東で、県政72年で初の女性県長として、重要な役割を担っている。
屏東の人口のうち、65歳以上の高齢者が全体の役20%を占め、五人に一人が高齢者であるため、どのようにして、より包括的で専門的に高齢者をケアするかが、私の責務である。

上畠議員
産業についても伺いたい。

知事　屏東は農業が盛んな地域ですが、観光や農業も発展の重点としています。現在、国家のプランにおいて、私たちの地域は科学パークの一部として、位置付けられている。そのた

め、台湾積体電路製造株式会社(TSMC)のようなハイテク産業を誘致すべく、積極的に模索している。

上畠議員　神戸は医療産業都市として特に力を入れており、医療の分野でも交流の可能性があると考えるが、如何か？

知事　神戸とは産業の交流や相互の訪問の機会を望んでいます。また、皆様が屏東に投資をすることも歓迎をしている。互いに協力し合い、それぞれの地域の発展促進を期待しています。

上畠議員
MOU など、具体的に締結も選択肢の一つだと考える。
覚書の締結形式や今後の具体的な交流について、ぜひ前向きに考えて協議していきたい。

我々が訪問する前には、頼清徳氏も被害の視察に来られたとのことでした。
何よりも、早期の復旧を祈るばかりです。このような大変な状況下で、表敬の機会を与えてくださったことに深い感謝の意を申し上げたいとおもいます。

文責:高橋としえ

参考：周知事との表敬については台湾国営放送においても報道されており神戸市会議員の訪問については現地において大変注目されている。

政治

神戸市議9人、屏東県を訪問 台風3号の被害に心寄せる／台湾

2024/07/28 13:26

いいね！ 49

神戸市議9人と記念撮影する周春米屏東県長（前列右から4人目）＝屏東県政府伝播・国際事務処提供

https://japan.focustaiwan.tw/politics/202407280002

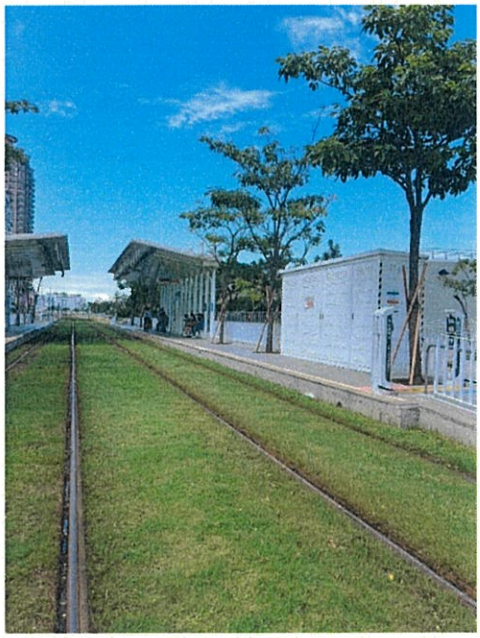
屏東県議会議員訪問

屏東県知事の与党を構成する民進党会派の屏東県議会議員を訪問し、今後の交流について意見交換を実施した。屏東県知事は先代の潘孟安知事を初め、現在の周春米知事と民進党に所属する知事であり、潘孟安前知事において知事退任後は民進党本部の要職を務め、現在は台湾政府のスポークスマンとして総統府秘書長（官房長官）を務めている。屏東県との交流は５年を経過するが、これまで我々と同じ立場である議員との交流はなかった。そこで今回、屏東県議会議員の方々と神戸市会議員が交流し、更なる連携推進につなげるべく、周知事の与党を務める民進党の屏東県議会議員の方々との意見交換を行った。訪問においては、屏東県議会からはこれまで日本の各自治体の議員との交流についても紹介され、同席された同じく民進党の屏東県内埔郷 鐘慶鎮郷長からも私自身も取り組んだ大阪府千早赤阪村と内埔郷の MOU 締結についても紹介がなされた。現在、神戸市会においては、議会としてシアトル市議会との相互交流の覚書が締結されているところであるが、屏東県の取組みとして紹介されているのは、鹿児島県議会との交流協定についての説明があった。また鹿児島県とは先の知事表敬の際にも紹介があったが、既に鹿児島県と屏東県政府の間においても MOU を結んでいるところであり、神戸市会として屏東県議会とのこれまでの交流を踏まえて、友好交流の実現も検討したい。具体的に屏東県議会としても訪問を神戸市会にしたい旨の意向もあり、シアトル市議会の例を参考にしつつも実体とともに実際に成果を導き出す交流協定をし、ひいては神戸市会側が神戸市と屏東県の交流を牽引し、台湾南部のフライトの就航や観光交流にも議会同士で連携を行って参りたい。この点については民進党の屏東県議会の方々も歓迎の意を表されており、自民党・維新が中心となって取り組みを進めて参りたい。

文責：上畠寛弘

高雄ライトレール（高雄捷運環状軽軌）試乗

高雄市内における交通インフラ調査のため高雄ライトレールに試乗。高雄ライトレールは市内の慢性的な交通渋滞と大気汚染の改善を目指し建設が進められた新都市交通システムであり、路線距離 22.1km、駅数 38、運行時間帯は 6:30-22:00、運行間隔は 15 分毎（ラッシュ時 10 分毎）、車両は超低床路面電車 20 編成で運行されている。走行装置はニッケル・水素充電池の電気二重層キャパシタによる急速充電ユニットを搭載し、停車時に駅ホーム内に設置されている剛体架線へパンタグラフを上昇し急速充電を行うことで駅間の無架線バッテリー走行を実現している。バリアフリー対応として各駅には車いす用のスロープが設置され、車内には車いす専用のスペースが設けられている。2024 年の全線開業に伴い距離制運賃が導入され、5km までは 20 元、その後 2km ごとに 5 元ずつ加算され、9km 以上は一律 35 元となり、乗車時、降車時ともにホーム内もしくは車内 IC 端末にタッチし利用する信用乗車方式を採用している。軌道敷は芝生化、全線の軌道緑化率を 80%以上に設定し、都市のヒートアイランド問題解消にも十分配慮されていると感じた。また、ライトレール 1 編成乗車定員数は路線バスの約 3 倍との試算もあり、輸送効率が高く、運転士不足への対応にも可能である。神戸市では都心三宮からウォーターフロントにかけて大規模な再開発が進んでおり、将来の移動需要を見越し、回遊性向上のための移動手段の検討を行っているなか、回遊性を促す移動手段の 1 つである LRT 導入の可能性を検討するうえで、高雄ライトレールの存在は十二分に参考になるものと考える。



文責：外海開三

駁二藝術特區

【視察先】駁二藝術特區・・・高雄港第三ドック内のひらかれたアートスポット
【目的】駁二藝術特區の視察を通じ、神戸の観光力向上に向けた提言につなげる。
【調査の流れ】
・LRT ならびに徒歩にて現地視察、随時説明を受ける

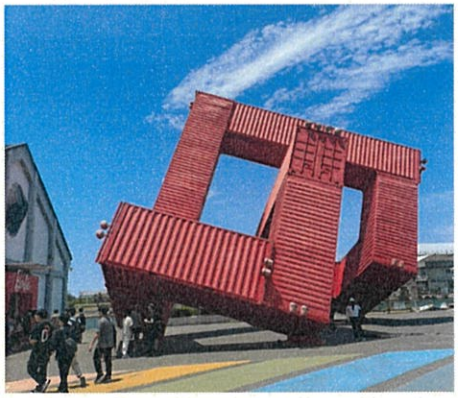
【視察先説明】
・この芸術特区は、海の近くにある煉瓦倉庫（高雄港に隣接する旧倉庫群）を活かし、近年、アート/文化と融合した商業施設に生まれ変わっており広く市民・観光客に開放されている。
神戸のハーバーランドに、アート作品がおいてあるようなイメージである。
・お店を除く屋外エリアは無料観覧可能、写真撮影可能となっている。
・市内の中心地とつながる LRT が走っており、アクセスも非常に良い。
・エリアも広く、４つのエリアから成り立っている。

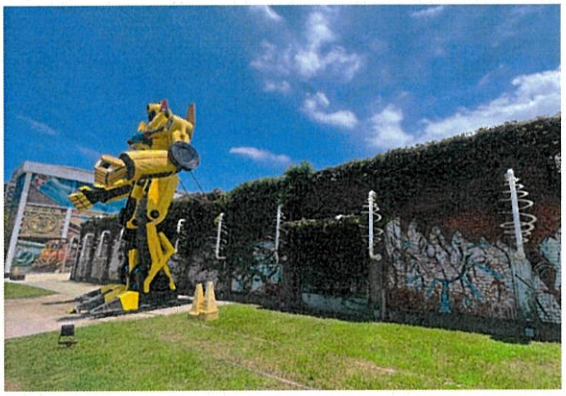
【神戸に活かせそうな点】
・先進気鋭のアート作品の展示
この芸術特区は、煉瓦倉庫を活かして、少し駅から歩くような部分においても写真をとりたくなるような大きな芸術作品をおくことで、エリア全体に人がいきわたる工夫がなされている。
・人気ブランドのポップアップストアの誘致
エリアの活性化のため、常設のお店に加えて、その時期に勢いあるブランド/いつもと異なる客層等のポップアップストアを誘致することで、エリアの新鮮味を維持することができている。
・無人 LRT を含めた都心部とつながる移動手段の是非
海辺のため、ハーバーランドのように都心部分から少し離れている。一方で、無人の LRT が街を 10 分間隔で走っており、エリアにも出やすく工夫されている。また、電動キックボードの利用も進んでおり、回遊性の向上にもつながっている。
・映画館における子どもデーや、子ども専用席の充実
Umie もアンパンマンミュージアムができたこともあり、子連れ人口が多いエリアである。常設で難しければ定期開催で、子供連れで鑑賞できる映画館/プロジェクトの誘致は更なる賑わい/滞在時間の延長を umie エリアにもたらすと考える。例えば Rokko iPark の映画館では土日祝を中心にそのような施策を行っている。
・鉄道博物館
アジア最大級の 1083km の鉄道ジオラマの展示がある。神戸は海洋博物館に 0 系新幹線が

置いてあるが、京都や大宮のような鉄道博物館の規模の鉄道博物館の誘致も、親子連れから大人までのうち、新規層の獲得が見込めると考える。

【一考の余地がありそうな点】
・広いため観光客向けに QR コードを読み取らせるなどでエリアの説明がなされる HP に誘導させる施策。
・日陰部分が少なく、夏の暑い台湾においては、その部分を解消させる施策。

【所感】
今回は、もともとは高雄動物園に行く予定だったが、大きな台風の影響で閉鎖されたため、急遽予定を変更し、駁二藝術特區の視察を行った。海に隣接する煉瓦倉庫を中心としたリノベーションエリアのため、神戸のハーバーエリアの活性化の議論をするにあたり大変参考になった。
帰国後すぐに行政との具体的な意見交換を行うことができ、結果としてハーバーエリアのアート作品の誘致をひとつのイベントとして検討いただくことにもつながった。
【視察写真】





文責：浅井美佳

義守大学

【日時】２０２４年7月２８日（日）　　１４時３０分～１６時３０分

【訪問場所】高雄市　義守大学

【対応】　台日経貿文化交流協会　理事長　張　瑞雄氏

義守大学　副教授兼主任日本語研究専攻主任日本語学科　楊氏（Yang,Pei-Jung）

※漢字表記できないので英語表記

【視察内容】

まず大学構内をバスで見学し、隣接するグループホテル内で日台経貿文化交流協会員と合流して、大学案内ＶＴＲ視聴後、楊氏からの大学説明、質疑応答が行われた。大学は広大な敷地を有しており、学生達の生活利便施設も完備している。

義守大学は台湾高雄市にある総合私立大学であり、運営財団が台湾南部の１番大きなグループ会社（Ｅ‐UnitedGroup)、鉄工産業、教育などを傘下に持つグループ企業が母体となっている。そのため、在学中からのインターン、就職までの垂直連携が可能であり大学の売りの一つとなっているとの事である。大学の歴史としては、鋼鉄産業から成功した林義守氏

が１９８６年高雄工学院を設立して、その後１９９７年に義守大学に改称された。教育の質を重視し、国際的な交流や多様な学びの機会を提供することを目的とした学校運営を行っている。

学生数は約１５０００人、うち外国人留学生は約１５００人、その中で日本人が約１５０人という割合である。９つの学部、４６学科、１９の修士課程、７つの博士課程があり、ホテル２件とマリオットホテル、病院３つと提携している。キャンパス内には、スポーツ施設、ゴルフ練習場、屋内劇場を併設しており、小さな国際都市となっている。学生寮は７０００床余り、体育・文化クラブ約１００団体を有している。世界約４５０校と姉妹校提携を結んでおり世界に通用する人材育成を行い、約４０か国より留学生が来ており、国際奨学金制度を設けて海外からも留学し易い環境作りも行っている。そのうち日本提携校は国立私立合わせて２０校あり、毎年２０名の交換留学生を日本に送り出している。今のところ、神戸の高校大学とも交流提携はないのだが、是非とも色々な形で神戸の教育機関と積極的に交流したいと思っているとのことであった。

特に国際学部は外国人教員が７割在籍しており、世界の提携校で学位がとれるようになっている。言語学部では、全て英語で授業が行われており、通訳のクラスや日本文化を教えるクラス等があり実際に外国語を使用できる機会を提供している。また、Ｅラーニング授業も導入しており、学習の時間と場所の問題も解決できるようにしている。世界ランキングはトップ４６％に位置付けられている。

【大学関連についての質疑応答】

河南議員）少子化に伴い学生確保については日本でも課題になっている。また、就職については地元企業とのマッチングができているのか、地元ではなく台北に就職してしまうのではないか、と考えるのだがその辺の状況は。

楊氏）義守大学にはメリットが２つある。１つはグループで教育機関を運営しているため、インターシップや就職がグループ内で可能であることが強みである。２つめは、ＴＳＭＣが高雄にも進出しており、関連企業も多く入ってきているため、立地的にも学生就職先の選択肢が多くなってきている状況であり、昔よりは高雄で就職できることが多くなっている。

浅井議員）神戸との連携にあたって何ができるのかと考える。最初の質問は、義守大学医学部は元々留学生だけでスタートしたとのことであるが、今もそうなのか。また、留学生は医学部生である必要あるのか、学士をとっていれば入れるのか。それと、義守大学の有名な研究成果などについてあれば教えて欲しい。

楊氏）今までは、外国人留学生が台湾政府の奨学金で医学部に来ており、母国に帰り医者になるというパターンであった。台湾人は大学卒業してから、漢方学科に入り国内で就職しているという形である。なぜ義守大学医学部が外国人留学生だけであったかといえば、国の文科省にあたる省庁より、国内医学部設置について生徒数の総量規制があったため新規になかなか医学部を設立して生徒募集ができないという事情があった。そこで、折衷案として病

院を同時に建設・併設して国交のある国より留学生を受け入れるという案が考え出され医学部が設立された。また、母国の文系理系を問わず大学卒業後に本学医学部には入学できる。研究については、癌の治療センターを設置して先進医療を進めており、ＡＩやスーパーコンピューターを使っての医療技術データを分析しており、そのあたりは医療産業都市神戸と交流ができるのではないか。

浅井議員）外国語学部は日本語学部と英語学部があるとのことだが、日本語学部のキャリアパスについてはどうなっているのか。日本での就職や３００企業のタイアップでは日本企業があり日本での就職が可能かどうか。

楊氏）毎年２０名の学生が日本にインターシップに行っており、主にサービス業であるホテルや温泉旅館に行き就職していた。最近は日本のＩＴ企業が人材不足ということもあり、ＩＴ企業に就職するようにもなってきている。

住本議員）義守大学の就職については、必ずグループ企業に就職できます、といった事をPRしているのか。就職率など教えて欲しい。

楊氏）就職については、３年時にインターターシップで２０名が日本に行き、サービス業であるホテルなどでインターシップを経験して、卒業後はそこに就職できる制度がある。あと、グループ企業は卒業生を優先的に採用している。台湾の就職率については、文科省から最近５年間くらいの就職率公開の要請があり公開しているが、総合的には８割位であり工学部が一番高く９割位である。

黒田議員）神戸にも多くの大学があるが、これまで交流はなかったとの事である。どうすれば交流・連携ができるのか進め方があれば教えて欲しい。

楊氏）提案であるが、来週は生徒を連れて東京に行き大学を訪問するのだが、最初は大学の学部間の先生同士、生徒同士で訪問して研修・交流していく。特にサマーキャンパスなどを通じて行き交流を深めて連携に繋げていくなどすればいいのではないだろうか。

文責：住本かずのり

義守大学

日程：2024 年 7 月 28 日(日)

訪問先：私立義守大学を訪問、大学関係者及び台日経貿文化交流協會　座談会

先方出席者：義守大学楊佩蓉副教授兼主任、台日経貿文化交流協会の理事長張瑞雄氏、常務監事 [redacted] 氏、秘書長 [redacted] 氏、理事 [redacted] 氏、[redacted] 氏、[redacted] 氏、顧問 [redacted] 氏、および台日音楽芸術親善大使の熊飛熊氏など計 10 名

台日友好が深化する中で、台日経貿文化交流協会と神戸市議員訪問団、ならびに神戸日台友好議員協議会は、義大集団の天悦ホテルにて台日交流会議を開催。今回の会議には、台日双方から合計 22 名が参加し、日本側からは 12 名の日台友好議員連盟の議員が出席しました。

高雄市と神戸市の具体的な協力事項について協議が行われました。両市は共に重要な港湾都市であり、これまで良好な協力関係を築いています。さらに、2025年に予定されている神戸空港の国際化に伴い、両市間の直行便も計画中であり、両市民にとって交流の機会が一層拡大することが期待されています。

張瑞雄氏は、神戸市と高雄市が重要な港湾都市として長年にわたり緊密な協力関係を維持していると述べ、将来的の直行便の開通に伴い、高雄港と神戸港の協力がさらに密接になると予想され、両地域の経貿交流が一層促進されることを期待していると述べました。

莊尚諭氏は、台日経貿文化交流協会が台湾と日本の経貿と文化交流を積極的に推進しており、今回の神戸市議員訪問団との対面交流が絶好の機会であり、台日協力が新たな段階に進むことを示すもので、今後もより実質的な協力を期待し、台日友好関係を持続的に促進していきたいと述べました。
また、台日音楽芸術親善大使である慕恩室内楽団の団長、熊飛熊氏は、今年11月に日本で演奏を行い、台日友好の情誼をさらに深める計画を発表しました。さらに、□常務監事は、台湾社会の各界に台日友好の支持者を「台日友好公益スポンサー」として募り、台日音楽芸術公益活動を共に支援することを呼びかけました。
翌日、台湾の地元紙：工商時報に今回の訪台の記事が掲載されました。

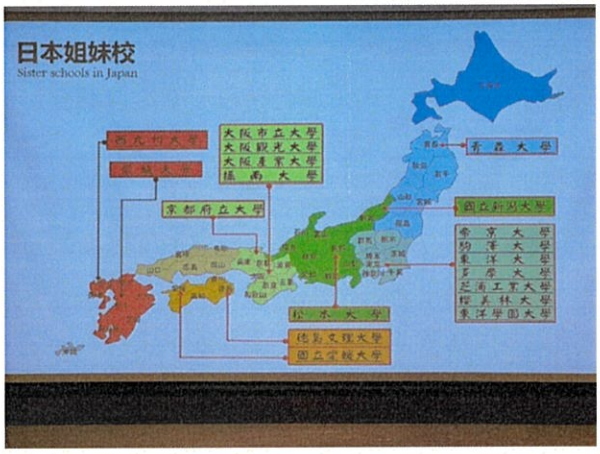
工商時報

日本神戸市議員訪高雄 兩市直飛明年有譜

2024.07.29 / 13:53 / 工商時報 陳建宇

台日經貿文化交流協會與日台友好議員協議會共商高雄、神戶具體合作事宜。圖／台日經貿文化交流協會提供

台灣與日本友好持續升溫，台日經



さらに、義守大学応用日本語学科の主任である楊佩蓉氏も本会議に出席し、会議中に義守大学のビデオが上映されました。このビデオでは、国際化の成果と AI 教育の特色が紹介され、出席していた議員からも高く評価されました。
教育分野の連携として、現在、義守大学には日本の大学からの交換留学生が 20 名在籍しています。これまでは学部間の連携や研修、教職員や学生との交流を通じて、姉妹校としての関係が築かれてきたとのこと。また、神戸の大学との積極的な交流を促進していきたい意向も示されました。

今後の展開として、楊佩蓉氏が秋に来日した際、神戸にも立ち寄り、神戸市立大学との交流を進めるため、関係者と協議の場を設ける予定です。また、神戸ワインの台湾市場開拓に向け、今秋に出席者の一人が農業公園（神戸ワイナリー）を訪問する予定で、その際は経済観光局が案内を担当し、関係者と共に販路開拓に向けた協議を進めていきます。

文責：黒田武志

TIPC 高雄港

日時:7月29日　10:00～

場所:台湾港務股彬有限公司高雄港務分公司
対応者:港務長[redacted]

1. はじめに

2024 年 7 月に神戸市会台湾訪問議員団として台湾の高雄港 TIPC(台湾港務株式会社)を視察しました。本報告書は、高雄港の現状、主要な業務、スマート化の取り組み、クルーズ関連の業務、そして今後の展望についてまとめた。

2. 高雄港の概要

高雄港は台湾最大の港であり、台湾全体の貨物取扱量の約 60%を占めている。2023 年の総コンテナ取扱量は 883 万 TEU であり、世界の港のランキングでは第 17 位に位置している。パンデミックの影響を受ける前には、年間取扱量が 1000 万 TEU を超えていた時期もあった。

3. 主な業務と取り組み

- 貨物取扱量の増加: 高雄港は、既存の顧客であるコンテナ運送会社の貨物取扱基地の拡大を支援し、桟橋の浚渫と改築を行い、大型コンテナ船の入港を促進している。例えば、長榮公司は第七コンテナセンターに移転した。また、マーケティングインセンティブ措置を講じて、貿易業者が高雄港を利用するように働きかけている。
- スマート化の推進: AI と映像を利用して港内の車両の流れを監視し、業者が現在の荷役効率や交通のボトルネックを把握できるようにしている。これにより、荷役効率が向上している。具体的には、AI 技術を活用した車両流れの監視システムにより、交通のボトルネックを特定し、効率的な荷役作業が可能となっている。
- クルーズ関連の業務: 高雄港の旅客ターミナルは昨年完成し、19 号と 20 号の埠頭にクルーズ船が停泊している。昨年 7 月から、数日間にわたりクルーズ船が訪れ、その後出港している。クルーズ船の利用は、世界中からのクルーズ船とその乗客を迎えるためのものである。

4. 質疑応答

- ライバルと目標: 高雄港は世界第 17 位という順位に位置していますが、他の港のインフラ整備が進むと競争が激化する可能性がある。高雄港は特定の港を目標にするのではなく、取扱量を増やし、順位を維持し、さらに上昇することを目指している。特に、東南アジアの港が成長していることを考慮し、競争に遅れないように努力している。
- 自由貿易港: 高雄港の陸域総面積の三分の一が自由貿易港区に指定されている。自由貿易港区内では貨物の受け取り場所として機能し、区外の工場と協力することが可能だ。例えば、自動車の部品が関税区域外の複数の工場に送られ、加工された後、再び自由貿易港区に集められて最終的に自動車として完成し、海外に輸出されるというモデルが運用されている。
- クルーズ: 高雄港の新しい旅客ターミナルは昨年正式に稼働を開始し、19 号から 20 号の埠頭に位置しています。昨年のクルーズシーズンでは、110 隻のクルーズ船が寄港し、合計 18 万人の乗客を迎え入れた。現在最大の船は Costa Serena Cruise で、総トン数は 11 万トン、3600 名の乗客を収容できる。この船は台湾を出発し、再び台湾に戻ってくるターンアラウンドクルーズをしている。

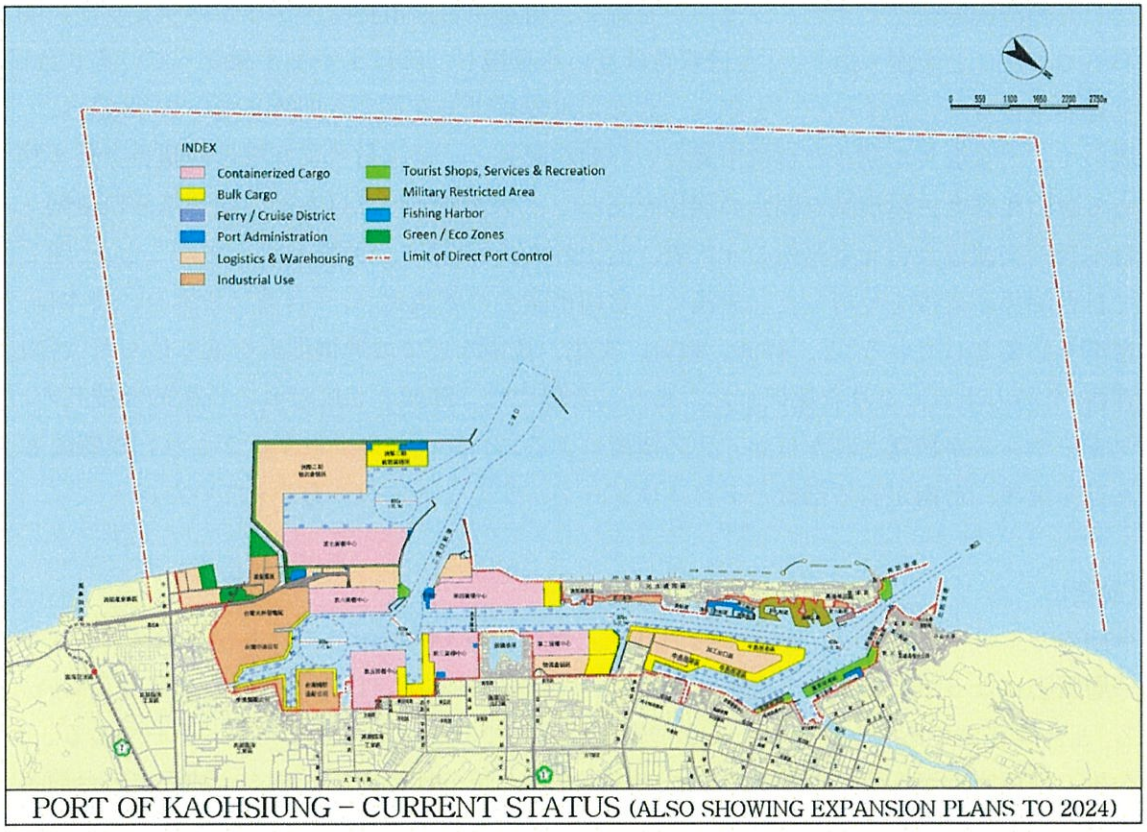
5. 今後の展望

高雄港は、転送貨物の取扱量を増やすために、基礎建設の強化やマーケティングインセンティブ措置を講じている。例えば、航運会社が高雄港を経由する際に、特定の優遇措置を提供することで、転送貨物の量を増やすよう努めている。また、現在の船舶大型化の傾向に対応するために、浚渫と改築を行い、港の施設をアップグレードしている。これにより、業者が船舶と貨物を高雄港に持ち込むことが容易になる。

6. 結論

高雄港の視察を通じて、港の現状や取り組みについて深く理解することができた。神戸市としても、高雄港の成功事例を参考にし、港の発展に向けた取り組みを進めていくことが重要であるとともに、阪神国際港湾(株)は TIPC と MOU を締結しており、引き続き神戸港とより親密な連携が必要になる。

台湾港務股彬有限公司高雄港務分公司の皆さんと



高雄港の状況

文責：のまち圭一

第10回日台交流サミット in 台南第一部

（概要）

2024年7月29日、第10回日台交流サミットが台湾南部の古都・台南市内ホテルで開催された。本サミットは、日本と台湾の地方議員の交流促進を目的とし、2015年に金沢市で初めて開催されて以降、毎年開催されており、台湾での開催は2018年の高雄市での開催以来2回目。今回は第10回の節目でもあり、参加者数は日台双方で過去最多を記録した(全体で約700人)。日本からは我々神戸市会議員団をはじめ、各地方議会(約50議会)の議員、民間団体のメンバーなど計433人が参加。台湾側からは、立法委員や地方議会の議員、文化友好団体の代表者などが多数出席し、さまざまな分野で日台連携の促進を確認する「台南宣言」を採択した。

（主な内容）

開幕にあたって、南部の農作物などで甚大な被害を出した台風3号の対応のため出席を断念した頼清徳総統がビデオメッセージを寄せ、自身が台南市長時代からこのサミットに関わってきたことを振り返り、「台日双方は互いを重視し、絆はますます深まっている」「台日友好が今後も新たな1ページを刻み、さらに世界貢献できるよう期待している」と述べ、続いて、大会会長を務めた台南市議会の邱莉莉議長と、全国日台友好議員協議会会長を務める藤田和秀名古屋市議が開会の挨拶を交わし、基調講演では日本側の対台湾窓口機関・日本台湾交流協会台北事務所の元代表、沼田幹夫氏が「第二の故郷台湾に思うこと」と題して日台関係の変遷を分析した。最後に、台南市議会の邱議長が、「台湾は日本を、日本は台湾を必要としている」と、経済、教育、文化、技術などでの連携促進を盛り込んだ「台南宣言」を読み上げ、これを採択した。また、会場では「陣頭」と呼ばれる特徴的な技芸のパフォーマンスが披露されたほか、ナノ技術によるスプレーでカラーリングされた胡蝶蘭も注目を集め、台南が誇る伝統とテクノロジーが、サミットに彩りを添えていた。

（最後に）

今回のサミット参加者は、全体で約700人。日台双方で過去最多であり、日台関係がより一層緊密になっていることを裏付けている。「台湾は日本を、日本は台湾を必要としている」と台南宣言であったように、まさに貴重な隣人であり、不可欠なパートナーである。今後、神戸空港が国際化されるなかで直接結びつく可能性は極めて高く、神戸市と台湾各市との経済、教育、文化、技術などでの連携促進や人的交流のさらなる関係構築が実現し、繁栄を互いに享受できるよう、尽力していきたい。

台南宣言（第10回）

台湾と日本は共に民主主義国家であり、「世界民主主義の連鎖」として注目される。民主主義、平和、繁栄、持続可能性、相互扶助は、台湾と日本の普遍的価値観であり、両国を最も緊密に繋ぐものである。

ロシアウクライナ戦争及びイスラエル戦争は世界に影響を与え続け、世界の平和と安定に対する最大の課題となっている。台湾は太平洋の「第一列島線」の戦略的位置にあり、東アジアの平和と安定にとって極めて重要であり、世界の政治、経済の発展に影響を与える。台湾と日本は、インド太平洋地域の安全を守り、自由で平和な世界の確保のために連携協力すべきである。

日台交流サミットは今年で10回目を迎え、経済、教育、文化、技術交流において台湾と日本がより親密に協力できるよう寄与してきた。私たちは長い間、国際社会に於いて台湾をアピールし、台湾の国際機関への参加を共通の目標としてきた。台湾と日本の外交、安全保障の為、両国政府に対し、一刻も早いハイレベル会合と連携を開始するよう要請する。地方自治体から中央政府まで、「日台関係に関する基本法」の早急な制定を求める。環太平洋パートナーシップに関する包括的及び先進的な協定（CPTPP）や世界保健機関（WHO)、その他の国際機関への台湾の加盟を積極的に支援し、台湾が国際社会で発言し、世界に対してより大きな責任を果たすことができるようにする。

「台湾は日本を、日本は台湾を必要としている」台湾と日本は、重要かつ不可欠なパートナーである。この10年間、日台交流サミットは両国の地方議会間の結束に重要な役割を果たしてきた。今後も台湾と日本の交流を深め、地域の平和と安定を維持し、各分野での相互利益と連携を促進し、日台のより良い未来を築いていくものとする。

文責：つじやすひろ

第10回日台交流サミットin台南第二部

台南市副議長・林志展氏による「今回を契機として、日本と台湾の各地方議会の交流がさらに広がることを期待する。日本と台湾の友好が永遠に続くことを祈る。」との開会挨拶で、第二部が幕を開け、その後は来賓挨拶が続いた。台南市長・黄偉哲氏は、２０１６年の台南大地震、コロナ禍においての日本からの支援への謝辞と共に、今回の日台交流サミットを契機として、文化・スポーツなど多方面での交流が促進されることを期待することを述べられた。続いて衆議院議員・和田有一郎氏からは、自身の国会議員としての活動の原点が、日台交流サミットにあること、そして日台両国は、国益と価値観を共有し、両国は互いに生命線でもある運命共同体であり、両国の新しい時代が開かれていくことを祈念する旨、述べられた。来賓挨拶の最後は、高雄市議会議長・康祐成氏。同氏からは、日台双方の関係がさらに友好になり、緊密になることを祈念する旨の挨拶がなされた。

二部の後半では、慶典風華という演舞が披露された。「十二婆姐陣」が登場し赤と黄色の扇子が、花火と爆竹を表している。「神と芸術の都市」とされる台南が誇る、鮮やかな芸術的典礼であった。歓談の際には、日台両国の各地方議会議員らが、時折、スマホで画像を示しつつ互いの街の誇れる物や、課題等について、熱く話し合っている姿が、会場の随所で見られた。

文責：岩谷しげなり

日本台湾交流協会台北事務所

（視察日）
2024 年 7 月 30 日
（場所）
日本台湾交流協会（台北事務所）

（報告者）
日本維新の会 なんのゆうこ

（目的）
『日本台湾交流協会』で働いている、自治体から出向している職員の業務内容や、日本と台湾の友好関係を深めるための取り組みなどについて意見交換を行うため。

（現地対応職員）

協会代表 片山代表：外務省より出向。
広報文化部 加藤主任：岐阜県恵那市より出向。
経済部 堀江主任：福岡県より出向。

（協会の概要）
公益財団法人日本台湾交流協会は、1972年の日中国交正常化に伴い、日本と台湾の実務レベルでの交流を維持するため設立され、その後2012年に公益財団法人に移行。
同協会は東京本部、台北事務所、高雄事務所を通じて、パスポートの再発行や紛失時の対応、医療機関の情報提供やトラブル発生時のアドバイス、経済協力や文化交流イベントの企画・実施、台湾各界との調整や協力関係の構築など、日本と台湾の実務関係を支えている。

（出向職員の業務内容）
経済部
•日本からの来訪対応…アポやアテンド補助など。
•日本国内の中小企業のサポート…10社程度招き、国際展示会を年2回程度開催。初出展企業の航空代、ブース代、通訳代を協会が負担。協会を通して参加する方が安心かつ出展しやすい利点がある。

広報文化部
・日本の議員の来訪対応
・台湾人向けに日本文化を紹介イベント…2ケ月に1度、日本食や歌舞伎講などを開催し台湾人と一緒に楽しむ
・外務省推進国際交流プログラム「JENESYS 事業」の運営
※JENESYS 事業…台湾と日本の学生（高校生、大学生）が互いの国を訪れ、文化交流や学術交流を行い、異文化理解を深め、国際的な視野を広げ将来の友好と協力の基盤を築くための事業。
・大型イベントを2023、2024年…日台フルーツ祭りを開催。試食、販売のみならず盆踊りなどで日本文化をアピール。

（質疑応答）
日台友好交流をしてきた経緯について
•日本と台湾は古くから友好関係にあり、台湾地震の際も日本からは支援金を。またコロナ禍時は台湾から日本へマスク、日本から台湾へ ワクチンを相互に送るなど互いを支え合ってきた。
具体的な日本の自治体との交流について

•愛媛県の「しまなみ街道」を中心に松山市と台湾はサイクルツーリ ズムを通じて交流を行なっているほか、炭鉱文化など台湾と共通する文化がある福岡県田川市との交流もあり、日本と台湾の交流が盛んである。

出向の理由と経緯について

•若手職員育成のため、自治体での公募あり。岐阜県恵那市は訪日する台湾人が多いため、仕事上で台湾と連携する機会が多く台湾への出向を希望した。

神戸市と台湾の自治体と連携協定について

•台湾に自治体の事務所を設立するために、市長や議員が互いに友好訪問し合うことが必要。ただし、台湾事務所設立時は台湾人しか代表になれず、自治体ごとの法律が違うため注意が必要である。

JENESYS 事業の取り組みについて

•2023 年、日本に訪れた台湾の高校生 30 名程度。高校生 10 名程度と大学生も 20 名程度、社会人も 15 名程度日本から台湾を訪れた。他にもオンライン交流会を開催、日本人、台湾人合わせて 30 名程度参加し、今後も JENESYS 事業の全面的にサポートしていく。

台湾での国際展示会への出展企業について

•毎年、最先端技術をテーマにした国際展示会を開催。今年「AIoTTaiwan2024」は、少子高齢化に伴い医療（ヘルスケア）をテーマに行なった。来年は 2 月頃開催予定であるが、日本企業への周知を日本の各自治体へ積極的に呼びかけていく。

神戸市への観光誘致の効果的な方法ついて

•最近は「非日常的な体験型」の観光需要の増加に対応することが必要であるが、オーバーツーリズムの問題への対応も検討しておく必要がある。

•台湾から見た神戸市は、とても魅力のある都市であるので、観光に関して工夫をすればもっと良くなる。

医療産業都市としての神戸市と台湾の交流について

•2023 年から医療（ヘルスケア）分野に注目しだしたので、今後は医療分野での交流の可能性は重要である。

出向職員の成果について

•台湾から高校生の修学旅行生を受け入れたり、学校交流の場を提供する機会が増えるなど、今後も両国の若者の繋がりが期待できる。

出向職員の給与等の負担について

•各自治体によって異なるが研修や出張手当、家賃補助や語学勉強のための補助など、出向元の自治体が負担しており、同協会からの負担なし。

（所感） 日本台湾交流協会を訪問し、日本からの出向職員が台湾との交流の重要性に関して、多様な業務を行なっていることを知ることができた。 経済部は、国際展示会初出展

企業の費用を協会が負担するなど、企業が安 心して参加できる環境を提供し、日本企業の国際進出の後押しや経済交流を促進する重要な役割を果たしている。また広報文化部では、JENESYS 事業を通じ、日本と台湾の学生交流を行い、異文化理解を深めることで将来の 友好と協力の基盤を築く取り組みを行うなど、両部署とも台湾との協力関係 構築に努めている。職員を出向させることで、自治体間の交流が持ちやすくなり、その結果、若手職員の育成や連携協定など幅広い交流を行うことができるといった利点もある。神戸市としても今後、神戸空港国際化に伴い、経済交流や観光誘致、教育交 流など、海外との交流機会が増えるため、日本台湾交流協会のように、互いの国の協力関係構築のために、職員を出向させることも今後必要になってくるかもしれない出向職員の給与等の負担について各自治体負担のため、慎重に考える必要がある。

文責：なんのゆうこ

台湾訪問所感

平井真千子

これまでの当議員連盟での台湾との交流の中で、台湾南部との往来は台北に比べて機会が少なく、短い時間ではあるが新たな出会いのある訪台となった。

屏東県では国家科学技術産業の集積を模索しており、神戸の医療産業都市の取り組みと関連した交流に知事は関心を示された。屏東県と神戸市の関係は、コロナ禍で上畠議員の要請に応えて防疫物資を寄贈いただいたことに始まる。コロナ禍を契機に屏東県民の善意に触れ、交流を深めた都市は多い。神戸市とも心の通った経済交流を進展させたい。

義守大学での台日経済貿易文化交流協会では、大学関係者からは神戸市が所管する高校、大学との留学や研修などの具体的な交流の筋道について意見交換ができた。また日本との音楽活動における交流を行う熊氏からは、神戸空港へのチャーター便を活用したゴルフ大会の開催など、高消費型の旅行企画のニーズがあると提案をいただくなど、神戸への前向きな関心を知ることができ、今後も交流の窓口としての関係を築いていきたい。

高雄港では 2023 年、新たにクジラを模した未来的なデザインの巨大なクルーズターミナルの供用が開始された。同じく未来的な巨大建築物である 2021 年に完成したポップミュージックセンターなど、象徴的なランドマークを取り巻くようにウォーターフロント一帯には観光スポットが広がり、近年高雄市が取り組んできた景観づくりやアートによる活性化が実を結んでいる様子は驚くほどだった。日本統治時代からの貨物線の跡は広々とした芝生の公園となり、倉庫街は店舗や映画館などにリノベーションされている。散策路のあちこちに立体のアート作品や壁面アートが配置され、ゆっくり歩いても楽しめるし、LRT によって快適に効率よく移動することもできる。港湾としての機能そのものも、コンテナ取扱量のさらなる増加を目指して桟橋の浚渫と改築等のインフラ整備も進めている。神戸港はコンテナ取扱量、観光化の両面ともアジアの中で遅れを取ってしまったが、山々の自然と美しい

街並みに抱かれた神戸ならではの港の魅力を磨くまちづくりを、今後も進めて行く必要性を強く感じる。

台湾所感

上畠寛弘

この度は主たる目的として日台交流サミット in 台南の視察をはじめ屏東県政府訪問を経て屏東県知事との意見交換、屏東県知事の与党たる屏東県議団の方々との意見交換を重ね、高雄市内の義守大学訪問や高雄市内の財界人との意見交換、神戸市が MOU を締結し高雄港を管理する TIPC 高雄事務所訪問、日本台湾交流協会台北事務所を訪問を行ったところである。なぜ今回のサミットが台南市であるか、そして台南市が重要であるといった点は、まさに頼清徳総統が誕生のきっかけはまさに頼総統の政治キャリアの第一歩は台南市長であることが端緒となっており、頼市長時代の日本との交流が台南サミットの開催に繋がった。二度目の開催となる台湾における開催で前回は高雄市での開催、今回は台南市での開催であったが、いずれも民進党の首長を擁する自治体であり、親日国家台湾の中において随一、二を競う親日的な市である。台南市は既に京都市との交流も重ねているところであるが、たとえ日本国内において交流する自治体があっても台南市側には積極的に日本の自治体の交流や MOU 締結などを締結する意向もある。また、神戸市が総領事館や大使館の誘致や外資企業の誘致にも力を入れているところであるが、その際のオフィス賃料補助についても関心を持っていただいており、台湾の自治体としては初めての駐日オフィス（ex 駐日台南市神戸事務所）の設置についても意欲を示されており、具体化に向けて力を入れたい。実際、神戸市の上海市の事務所については撤退させたものの、海外事務所を複数設置しているが、神戸市内に海外の自治体の事務所は存在していない。我々神戸市から設置をすることによって神戸市への投資誘致や交流に取り組むことも良いが神戸市が魅力ある町として自信をもって言えるというのであれば、海外の自治体、特に台湾の自治体の駐日事務所を小規模なものでもよいから誘致することも検討する価値はあると考える。また、今回は先述の通り、台南市のほか高雄市や屏東県の訪問も行い、屏東県への訪問においては、屏東県知事である周春米閣下との意見交換も行われ、周知事は積極的な神戸市との交流の意向、鹿児島県に次ぐＭＯＵ締結の意向を示されたところである。屏東県の神戸市との交流については大変可能性が高く 5 年前にこれはあくまで個人的な訪問であったが、当時私、植中議員、河南議員、黒田議員の神戸市会議員と共に屏東県を訪問し、潘孟安知事（当時）との意見交換、交流を重ね、それがきっかけにコロナ禍における医療物資不足の際にはこの際の交流が端緒となり、潘知事の決断によって屏東県政府から多大な医療物資の支援を神戸市に対して行っていただいたこともあり、また現職の屏東県知事として初めて神戸市長にも表敬訪問を頂いたところである。潘知事は現在、台湾政府の要職に就かれており、現在、総統府秘書長という日本でいう官房長官に相当する地位であり、潘知事からつながり、現在も潘知事と同様

の民進党の知事である周知事を筆頭に屏東県との交流強化をすることは、ひいては台湾政府とのパイプ構築にもつながっていく、神戸市から日台両国関係の発展に資することとなるものである。このような観点から屏東県には、神戸市経済観光局からも派遣されて、屏東県との交流や連携についての模索が本年１１月に行われたところである。神戸空港の国際化が実現し、来春の台北と台中へのチャーター便就航が決まったところであるが、比較的に民進党が強く親日的な土壌が強い台湾南部においても神戸空港とのチャーター便、2030 年には定期便の就航を実現することを目指していきたい。この点については 12 月 5 日の神戸市会本会議の一般質問において私より久元市長に対しての今後の台湾との関係強化において、台南をはじめとする台湾との交流、また就航を目指す旨の答弁が得られたところである。

かつて神戸市においても第７回日台交流サミット in 神戸を我々神戸市会議員が開催成功に導き、これまで親中的なイメージを持たれた神戸市においてそのイメージ払しょくと神戸市は台湾との交流に対する大きな意向があるのだという意思を内外に表明するきっかけとなったところであり、このサミットが毎年開催される度に神戸におけるサミット開催は再評価をされ、神戸市と台湾の交流が益々深化している。このふわっとした対外的なイメージであるがこれは極めて重要である。この神戸市の台湾との友好を大切にしているという事実が内外に知れ渡ることがひいては台湾との経済交流にもつながり、投資を呼び込み、台湾観光客の誘致につながる。この度、12 月 4 日には神戸空港と台湾線の就航の実現が発表されたところであり、これには多くの台湾政府関係者の協力があった。今回の台湾線就航実現についてはまさにこのような取り組みの賜物であると確信する。

台湾所感

河南忠和

出張レポート：台湾南部との友好関係構築に向けた訪問
期間：２０２４年７月２７日から７月３０日
場所：屏東県庁他

訪問背景と目的
今回、台湾南部と神戸市の友好関係を一層強化するために潘孟安氏から新たに屏東県長となった周春米氏を訪問しました。この訪問の目的は、経済や観光、文化、教育など多岐にわたる分野での協力の可能性を探り、実りあるパートナーシップを築くことであります。

所感
周春米県長と会談を行い、彼女のリーダーシップのもとで屏東県が進める施策やビジョンを知ることができました。周県長は、地域経済の発展だけでなく、環境保護や地域住民の生活向上にも強い関心を持っており、これらの分野での連携が期待できると感じました。特に、神戸市が力

を入れている都市の持続可能な開発や災害対応のノウハウを共有することで、屏東県の発展にも寄与できるのではないかと感じました。

また、屏東県は豊かな自然や観光資源を有しており、双方の観光促進も今後の大きなテーマとなるでしょう。神戸市の観光資源と組み合わせることで、互いの魅力をさらに高め、訪れる人々に新しい体験を提供できる可能性があると感じました。

出張成果

この訪問では、以下のような成果がありました：

1.　交流の深化：屏東県と神戸市の間で、定期的な交流イベントの開催を検討する方などが確認されました。これは、文化・教育分野の交流を活発化させ、相互理解を深める第一歩となります。

2.　観光連携の推進：屏東の観光地と神戸の観光地を連携させ、共同で観光プロモーションなどを行うことで、双方の観光客誘致を図る計画が議論されました。

3.　経済協力の可能性：地元企業の技術や商品を台湾市場に紹介し、相互にビジネスの機会を創出するための基盤づくりを進める可能性が議論されました。

4.　災害対応・環境保護の共有：神戸市が進めてきた災害対応の経験や、都市の環境保護施策を屏東県に共有することで、双方が協力して持続可能な地域社会の発展を目指すことが議論されました。

今後の課題と展望

今回の訪問は、屏東県と神戸市の関係を一段と強化するための重要な一歩となりましたが、今後さらに実際のプロジェクトとして具体的に動き出すためには、両都市の関係者が一層の協力体制を築くことが必要です。特に、企業や住民が積極的に関与する形で交流を深化させ、長期的なパートナーシップを構築していくことが必要です。

結び

周春米県長との会談を通じて、屏東県が神戸市と多面的に連携する可能性を強く感じました。今回の訪問で築かれた信頼関係をもとに、双方が互いに発展し合えるよう、引き続き努力してまいります。

台湾所感

山下てんせい

7 月 28 日から 30 日にかけて実施された台湾視察及び友好サミット参加に関し、所感を申し述べる。

この間、高雄においては義守大学やTIPC、台北においては日本台湾交流協会を各々訪問し、レクチャーを受け、また交流会を設けていただき、大変学びがあった。
また29日に台南にて挙行された日台親善友好議員連盟サミットは、全国津々浦々の国会・県会・市町村会議員が200名以上参加し、また台湾からも県会・市会議員が同等あるいはそれ以上結集するという、空前の規模であった。
これを受け止めるだけの場所を提供し、また開催の実行を懸命に支えた、台南市や議会の関係者に、心から感謝したい。

しかしここで特筆すべきは、台湾のイベントにおける民間企業や民間団体の支援が非常に積極的であったということである。日本では、議会が主催するイベントとなると、ともすると身内でできる範囲で準備し、コミュニティの力による支援に依存するに止まっているという印象である。台湾では、そういった印象は全くなく、むしろオール台南の物産展もかくやと思うほど、すべてが周到で華やかで、豊富で熱心であった。

この熱量はどこから湧き上がるのであろうか、ある台湾の友人の一言がそれを表していると思った。曰く「それだけ日本を大事に思っているんだよ」ということである。

我々が次にお迎えするときに、この印象と感謝をどれだけ持っていられるか、このことは単にサミットを主催するという責任感のみならず、もてなす、という原点に立ち返った学びがそこにあったのではないかと思う。そして目的遂行のために、民間企業や民間団体からの支援を受けられるよう、日ごろから関係を構築しておくことの重要性も改めて感じた。

以上

台湾視察所感

自由民主党神戸市会議員団　　うえなか雅子

7月27日午後4時～

①〔屏東県政府にて〕

台風による甚大な被害状況の下、その対応に追われる中で、周春米県長が我々訪台議員団の為に貴重な時間を割いて下さったことに心から感謝を申し上げたい。活発な意見交換の中で、屏東県で初めての女性知事として農業・福祉・観光・ハイテク産業・医療・文化・芸術等の幅広い多岐に亘る分野への取り組みを推進的に進める意欲を感じた。神戸市とのMOUの締結や、今後の交流の進展にも期待したい。

私は5年前にも屏東県を訪れ、県政府にて潘前県長を表敬訪問し、意見交換をさせていただいた。潘前県長は、現在は、頼政権の官房長官を勤めておられるとのこと。砂島やコーヒー園、最南端の岬を視察した経緯があり、懐かしさと共に、今回も

変わらぬおもてなし対応をいただき、お礼を申し上げたい。

② 屏東県議との意見交換会（民進党本部にて）

台風被害が大きくその対応に追われ出席予定 17 名の県議の内、5 名が出席。中国に対しての意見を求められましたが、デリケートな問題である為、明確な回答は差し控えた。来年には、県議の皆さんが神戸に来られる計画があるとのこと。民間交流や議員交流がさらなる日台友好関係の発展に繋がると考えているので、積極的に交流促進に努めたい。

7 月 28 日午前 10 時～

〔高雄駁二芸術特区にて〕

LRT に試乗して、高雄寿山動物園を目指したが、台風の被害のせいなのか休園ということがわかり、急遽引き返して駁二芸術特区の視察となった。

古い建物のウォールアートや大勇倉庫群エリア、巨大なオブジェ等、見所は満載で、昼も夜も人気があり、高雄の新しい観光人気スポットになっている。

古いままの建物を、非常に効率良く使い、レトロ感も又新鮮だ。

神戸にも、昭和感の溢れる芸術特区があっても良いのではないか。充分に観光誘致の目玉になると感じた。

芸術家が思いっきり活躍できる街づくりは、どうか？

7 月 28 日午後 2 時～

〔義守大学訪問〕

義守大学は、鋼鉄で成功を治めた林義守氏が、高雄工学院を立ち上げ、その後義守大学となったとのことであるが、とにかく広大な敷地には大学のみならずホテル、レストラン、多くのブランド店、モール、病院等々が設置され、トータル経営をされていることは大きな驚きであった。世界各国450校と姉妹提携を結ばれており、是非神戸市の大学とも交換留学等を進めたいとご要望いただいた。医師免許取得等々が気になるところである。日本でも適用されるのかという点が課題と感じた。

7月29日午前10時～

〔TIMC高雄港視察〕

港務長から高雄港の貨物取扱量は世界17位で現在837万トンであるが、コロナ渦や台風の為に減少した分を取り戻し、以前の1000万トンをめざして貨物誘致を進めている。他の港湾都市との比較より、今は目標実現に努める事のみに専念したいとの説明に強い覚悟の程を感じた。

高雄港の水深は22m。神戸港が16mから18mに水深化をするなら、古いターミナルの浚渫工事をするよりも、新しいターミナルを造る方が良いとのアドバイスをいただいた。

中継貨物増に、深水化により大型船を誘致する為の補助金を出す優遇措置をしていることや、AIシステムを駆使して適したターミナルに誘導していること等、一歩も二歩も先ゆく高雄港の現状をうらやましく感じ、神戸もやるぞ！と港神戸のさらなる発展を目指したいとの思いを強く持った。

自由貿易港区という事で、税金優遇や規制緩和、国際物流の拠点であることで、グローバルな物流モデルとなっていると感じた。

以前に神戸市の外郭団体である阪神国際港湾株式会社がTIPCを訪れた経緯があり、上畠議員から、更なる交流や提携への依頼をさせていただいたことは、大きな後押しになったと考えられる。

7月29日午後3時

〔第10回日台交流サミット in 台南〕

日台友好議連の神戸市会議員15名が参加。

日本の各都道府県市からの参加者は463名にも上るとの事。

台湾の議員のみならず、日本からの議員の皆さんとも交流・懇親をし、日台友好のさらなる発展を願い、議員同士がその架け橋にならねばと、再認識をした。

大会会長を務める邱台南市議会議長も女性、高雄市議会議長も女性と、台湾では女性の活躍が素晴らしい！ある男性議員が、「台湾では男性を保護してもらわなければ」と、ユーモアたっぷりに話しておられたが、政治における日本での女性参加が増えないことに、忸怩たる思いがある。

台湾で刺激をいただいた。

政治への女性参加の促進をめざしたい。

来年は鎌倉市で開催。今後も交流サミットの継続を望む。

7月30日午前10時～

［日本台湾交流協会台北事務所訪問］

片山代表や経済部・広報文化部担当者から活動状況の説明を受け、質問をさせていただいた。

毎年、日本企業 10 社に年２回の国際展示会出展を促し、航空券や通訳、ブースの代金を負担しているが、残念ながら、神戸市からの出店はないとのこと。

年によってテーマが変わるので、医療やAI、機械等々、神戸の企業も是非参加をし、チャンスを活かして欲しいと思う。

神戸空港の国際化により、チャーター便や定期便就航が、台湾との交流や提携のさらなる拡大をもたらしてくれるものと大いに期待をしている。

[桃園国際空港に向かうバスの中で]

通訳ガイドの ▭ さんの話から。

台北では家を持つのも借りるのも大変であるとのこと。(高い、物件がない)

幸い、今日まで台北では地震の被害はないので、古いマンションでも借り手はいくらでもある。耐震補強や修理等に家主は資金を出さない。

地震になればとんでもないことになる。

彼は屏東県に実家があるが、屏東県には若者の働く場がないので家賃の高い台北に住んでいるので、生活は大変だと言う。

台湾では、理工系でなければ仕事はないとのこと。

日本の少子化よりも、台湾の少子化は著しい。

途上国からの人材に頼らざるを得ない等々。

若者の本音を聞くことで、その国の抱える課題が垣間見え、我が国の状況と照らし合わせる学びの機会をいただいた。

台湾の皆さんの親日感情に感謝し、親台感情の醸成に努めたい。

台湾所感

浅井美佳

【全体所感】

今回の台湾視察は神戸の更なる発展ならびに日台連携を具体的に考える上で、実際に自

身の目で確認でき、大変勉強になった。

まずは視察を行うにあたり、台湾と神戸市の友好関係について、MOU の締結状況を調べた：

【台湾と神戸の MOU(覚書/連携協定)の締結状況】

観光面）観光交流促進に向けた PR 活動や夜市など開催

・神戸観光局と台湾・桃園市政府観光旅遊局

・有馬温泉と新竹県

産業面）産業関係、企業間交流や各種商談会など開催

・台湾・経済部台日産業連携推進オフィス(TJPO)と神戸市

港湾）

・台湾・TIPC(国営企業)と港湾に関する研究、技術支援、人材育成等に関する連携

教育）

・正修科技大学と神戸市立工業高等専門学校

・国立台湾師範大学と神戸市立外国語大学

芸術）デザイン/創造的分野での、ネットワーク強化、社会課題解決

・台湾設計研究院と KIITO

この中でも今回は、港湾と教育、芸術面に重きをおいた現状視察と更なる発展に向けた意見交換を実施した。後述するように帰国後それぞれ私からも行政に対しての提案につなげることができた。

高雄港の視察では、例えば入港数を増やす施策について意見交換が行われ、神戸港の深さが不足している点などが先方から指摘された。今以上の深さが神戸港の発展に必要なのかはさておき、時代も変わりつつある中で、飛躍的に取扱貨物数が増えたアジア諸港の理由や投資の方向性、どう諸問題を乗り越えていったのかを深く理解することが必要だと考え、帰国後、国内外で発行されている港湾に関する資料や論文数十冊を読み込み、外郭団体に関する特別委員会等の場において、神戸港発展のための具体的な質疑を行うことにつなげた。やはり日本を代表する神戸港であってほしい、アジアで諸外国に負けない神戸港に戻ってほしい。神戸港をどこまで発展させるという目標をもつのか、そして国と今以上に連携をした時代に合った神戸港の政策を進めることが重要である。

芸術面では、高雄港に隣接する旧煉瓦倉庫街での視察を通じて、神戸のハーバーエリアの活性化/新規層の獲得の提案を帰国後に同じく外郭団体に関する特別委員会の場にて行い、実現に向けて前向きに行政に動いていただくことになった。

教育面としては、財閥が運営する義守大学や周辺の関連施設の視察を行った中で、IT 人材の世界的ニーズの高まりを神戸での温度感よりもはるかに高いものを感じることができた。神戸における公立校においてもその視点で人材を育てる政策を提案したい。

総じて、聞き調べるだけではなく現地に赴くことで、実際の空気感も知ることができ、細かい質疑も行えた。帰国後、行政へ提案することで前に動く案件もあり、新しい視点も得ることができ、
今後の神戸の発展に向けて大変前向きで有意義な視察にすることができた。

台湾所感

つじやすひろ

このたび、海外視察に帯同させて頂く貴重な機会を得たことに、先ずは感謝の意を表したい。

台湾は、貴重な隣人であり、不可欠なパートナーである。今後、神戸空港が国際化されるなかで直接結びつく可能性は極めて高く、神戸市と台湾各市との経済、教育、文化、技術などでの連携促進や人的交流のさらなる関係構築が実現し、互いに繁栄できうると期待をこめて参加させて頂いた。実際、今回の台湾視察を通じ、日本と台湾の地方自治体間での連携の重要性を改めて深く認識した。特に、高雄市をはじめとする地方自治体の先進的な取り組みは、我々に多くの示唆を与えてくれた。

まず、高雄市内を移動する中で、市が推進する持続可能な街づくりへの強い意志が随所に感じられた。公共交通機関の整備や、自転車インフラ（シェアサイクル）の充実は、都市の快適性と環境負荷の軽減に大いに寄与しており、これらの施策は神戸市における交通政策の参考になると確信した。また、高雄 LRT に乗車し、駅周辺から旧高雄港エリアを視察した際、かつての鉄道貨物ターミナルや埠頭が、リノベーションによって新たな命を吹き込まれている様子が非常に印象的だった。このエリアは、廃墟となったレンガ倉庫群等、かつての産業インフラを芸術や観光の拠点として再生し、地域に新たな魅力を提供している。

特に「哈瑪星鉄道文化園区」や「駁二芸術特区」では、古いものと新しいものが巧みに融合し、芸術的な壁画や独創的なモニュメントが立ち並ぶ中で、オシャレな本屋や雑貨店、カフェが集まる、モダンでありながらも人間味あふれる街づくりが進められている。さらに、元々の広大な敷地に新たに LRT（路面電車）が整備されたことで、アクセスしやすいエリアとなり、地域のアーティストやクリエーターのみならず、行政も一体となって取り組む姿勢が非常に印象的である。古き良きものを大切にしながらも、新たな価値を創造するこの取り組みは、高雄市の発展と文化的豊かさを象徴しており、神戸市における今後の都市開発や SDGs 視点での街づくりにおいて、大いに参考にできるのではないか。

さらに、神戸市と屏東県との分野別連携の可能性についても、実りある議論が展開された。特に

農業、観光、教育分野での協力強化により、両地域の発展に寄与できる可能性を見出した。また、高雄市内の大学との学術交流が、教育や研究の分野において新たな発展の可能性をもたらすことを確信している。最後に、TIPC 高雄港と神戸港の連携強化についての意見交換では、両港がアジアにおける重要な物流拠点としての役割を果たすため、さらなる協力の深化が求められていることを痛感した。今回の視察で得た知見をもとに、今後の神戸市政において台湾各市・地域との連携を一層強化し、共に発展していけるよう努めたい。

台湾所感

外海開三

高雄市の高雄港北部の総合再開発地区である「アジア・ニューベイエリア」。中でも前鎮区一帯のウォーターフロント再開発地区は高雄の新たなランドマークとしてにぎわい創出の一翼を担っている。かつて魚粉や糖類を保管し、その後利用されていなかった倉庫群をリノベーションし文化芸術の聖地へと転換させた「駁二藝術特区」では、産業遺産を現代美術と融合させることで、活気溢れる公共空間として国内外より多くの観光客が訪れていた。古いレンガや鉄骨が剥き出した倉庫をそのまま雑貨店やカフェなどに改装し、通路や壁に様々なオブジェやアートペイントなどが点在しており、訪れる人を飽きさせることなく回遊性を促す仕組みづくりがされていると感じた。三宮からウォーターフロントにかけて再開発を進めている神戸市において移動手段による回遊性の向上のみならず、ハード面での回遊性向上を検討するのであれば大いに参考になると感じた次第である。

台湾所感

高橋としえ

国際交流イベントやサミットを通じて、台湾と神戸市は従前より良好な関係を保っており、今回の訪台は第10回台日交流高峰会in台南の参加及び屏東県訪問、高雄義守大学、高雄港等の視察を主なる目的とし、今後の台湾と神戸市の相互の発展を期待し私も議連の一員として参加させていただきました。

生憎、訪台直前の2024年7月25日、台湾に台風3号(ケーミー)が上陸し、台湾南部の港町高雄の沖合に停泊していた貨物船が沈没するほどの大変な被害がある状況である中、短時間ではありましたが、屏東県を訪問。周春光県長と面会をし、台風3号が同県にもたらした被害に心を寄せ、阪神淡路大震災から神戸市が復興した際の経験を共有させていただいた。

周春光知事は屏東で73年ぶりの女性県知事ということで、私としてもどういった政策があるのか非常に興味深い気持ちを抱いておりました。周春光知事は台湾発のハラスメントの被害者を追跡する一活サービス、母子保育サービスの第一子への拡大、新社会人女性への職場でのマンツーマンの仕事キャリア相談や2000元の衣類補助、高齢者の介護補助、公衆トイレの清潔と安全の強化、育児から雇用、福祉から身の安全の至るまであらゆる面での女性のニーズに応えようと考えているとのこと。面会時には特に、高齢化が進み要介護者や認知症の急激な増加に伴う女性の負担やストレスの軽減のためにより専門的で総合的な計画を進めていきたいと女性ならでの奥に秘めた力強さに共感を覚えました。また、今後は特に半導体企業の誘致など工業面でも力を入れていきたいので融資もお願いしたいとおっしゃっていました。

屏東県と神戸市がMOUを締結の可能性を提案し、文化、産業、さらに神戸空港の国際化に向けて観光ルートの発信などを通じて相互往来、相互交流を促進する事で締めくくりました。

次に、台湾最大の港であり国家戦略拠点港として位置付けられておりアジア太平洋地域の海上交通の要衝である高雄港を視察。世界第17位のコンテナ取扱量もコロナウイルス感染拡大により一時期減少したが現在回復傾向にあるとの事。コンテナターミナルの先鋭的な整備状況、国際海上コンテナ輸送にかかるコスト低減方策、脱酸素に関する動向、船舶保安システム(ISPS)など学ばせていただいた。

国際競争力を保持するため、改めて大規模な港湾施設と利便性の高い施設が必要で、特に船会社に対応したサービスの充実も大切であり、神戸市も港湾の優位性を高める努力はより

一層必要であり、引き続き両港の発展に寄与できるよう協力関係を築いていっていただきたいことを要望する。

第10回日台サミットに参加、日本と台湾がいかなる困難にも立ち向かい、助け合い、励まし合いこれまで以上の信頼関係を築いていくことを再確認することができた記念のサミットでありました。3日目は日本台湾交流協会台北事務局を訪問し、まずは外務省出身の片山和之代表との会談。神戸市とは今後、交流協会として協力していきたい旨のご挨拶をいただく。私からは神戸空港の国際化を踏まえまだまだ周知の行き渡っていない神戸医療産業都市のアピールと今後の協業促進についてもお話しさせていただいた。

私が2019年より神戸市会で質疑させていただいている薬剤とレーザー光によりましてピンポイントでがん細胞を攻撃する治療法、光免疫療法は令和2年9月に楽天メディカル社が薬剤と器材のつき製造販売承認されて以来、今や楽天メディカルジャパンと神戸大学が連携し、神戸医療産業都市を拠点としてイルミノックス治療「光免疫療法」による頭頸部がんの治療や新たな領域での研究開発が進められており、がん患者様にとって一筋の光が見えてきている。

今回の視察では台北楽天メディカルを表敬訪問視察が叶いませんでしたが、全世界にがん克服のミッションが伝われば嬉しく思います。神戸市は台湾との産業協定も推進しており医療関連産業や機械、化学などの分野で医療技術の発展に向けて相互の強みをさらに生かし交流を深めていくことの重要性を再認識させていただき、有意義な視察になりましたことをご報告させていただきます。

台湾所感

住本かずのり

今回の台湾訪問を通じて感じたことであるが、昨今の中国との関係で、より神戸をはじめ日本との連携を強めたいという印象を受けた。日台交流サミット in 台南では多くの地元の議員も出席しており盛大に開催されたことは、大きな象徴であろう。今回は主に台湾南部（屏東県、高雄市、台南市）中心の訪問だったが、屏東県では大型台風通過後の大変な時期に周知事自ら対応頂き感謝申し上げたい。また、私たち訪問団が訪れた2か所（屏東県、日台経貿文化交流協会）がそのたびに地元新聞の記事に好意的に取り上げられたことで神戸との交流の期待の高さを感じるものであった。

台湾も少子高齢化が日本よりも早いペースで進んでおり、台北一極集中も日本と同じ状況である。そのため、高齢者福祉、医療、若者の就職などこれまで日本が経験してきた課題

をどう解決してきたのかという事を台湾で聞くことが多くあり、日本での先進事例を台湾各自治体単位で取り入れたいという感じを受けた。神戸空港国際化に伴い、台湾北部では台北、南部では高雄が国際定期便で結ばれると、文化・教育・経済交流がより一層進み緊密化するだろう。そして、大学間交流も進み人材交流も進展することを期待したい。

台湾所感

のまち圭一

初めて日台議員連盟の総会に参加し、日本と台湾の友好関係と固い絆を再確認することができた。今回視察した高雄、台南、台北は、台湾新幹線で結ばれたことで大きな経済発展を遂げた地域である。特に、高雄港は台湾国内の縦の軸をベースに、世界的な貿易港として発展してきたことがわかった。すでに世界基準の推進力と大規模な岸壁が整備されており、コロナ禍で一時的に落ち込んだものの、自由貿易港としてさらなる飛躍が期待される状況であった。また、阪神国際港湾（株）と高雄港とのMOUを通じて、両港の連携を深め、神戸港のさらなる発展に向けて学ぶべきことが多いと感じた。今回の視察を通じて、引き続き台湾と日本、神戸の親密な連携が必要であることを強く感じた。

台湾所感

なんのゆうこ

日台交流サミット出席、TIPC高雄港、日本台湾交流協会（台北事務所）視察のため台湾を訪れた。7月27日に台南市で開催された「第10回日台交流サミット in 台南」には、日本と台湾の地方議員や団体など700名近くが参加し、良好な日台関係を示すものとなった。サミットでは、経済、教育、文化、技術などで連携促進を盛り込んだ「台南宣言」を採択。両国の地方自治体の問題や課題について、台湾議員と話す機会が得られ、大変有意義な会であった。
中でも近年、台湾の社会的問題として急速な少子化、若者のサービス業や工業離れなどによる労働力不足が深刻な問題となっており、日本と同じ社会問題を抱えていることが分かった。急速な少子化の原因は日本と同様、女性の社会進出や住居費用の高騰などにより、子供を持つ余裕がなく婚姻数が減少している。また、労働力不足については、東南アジアからの出稼ぎ労働者に頼っているが、韓国や日本も同様に頼らざるを得ないため、出稼ぎ労働者の取り合いになっているなど、迅速な対応を強いられている。
他にも、台湾の女性議員とジェンダーについて話していた時に「なぜ日本の女性議員は少

ないのか」と聞かれた。台湾ではクオーター制により女性議員が多く、女性目線で社会の問題や課題に取り組むことができると話していた。例えば、ジェンダー平等の強化（経済的平等、教育、雇用、家庭内暴力対策など）や女性の政治参画の促進、保育サービスの支援拡大、ワークアンドバランスの改善など、幅広い政策を提案している。
昨今、日本でも課題となっている少子化問題や若者や女性の低賃金の問題に対して、多様な目線で考えていくためにも、女性の目線で政策を検討することが必要ではないかと思う。

台湾所感

岩谷しげなり

今回の視察は、私は、日台交流サミットからの参加であった。台湾の各地方議会議員及び日本の各地方議会議員を中心とし、約 700 名が参加する盛大な催しであった。各議会代表者からの挨拶があったが、その多くに共通していたのは、台風や地震被害、さらにはコロナ禍における相互支援についての謝意であった。日本と台湾は、価値を共有する国同士であるが、それだけでなく自然災害や疫病、安全保障、都市部への一極集中といった「危機」をも共有している。それらの各分野においても、両国の知見をさらに共有・集約していくことが必要となるだろう。

その翌日は、公益財団法人日本・台湾交流協会も訪問した。本協会には、福島県と岐阜県恵那市からの職員が出向し、台湾における両自治体の産業・観光促進に努めていた。出向が実現したのは、首長の台湾に対する強い思いがあったからとのことであった。現状、台湾から日本への観光客よりも、日本から台湾への観光客の方が多いとのことである。神戸市は、２０２５年神戸空港国際化を控えており、アジアを中心に就航する見通しである。だからこそ、いよいよ名実共に国際都市として再度歩みつつある神戸市もより一層、台湾はじめ、アジアの友好国との文化・経済面での交流を促進していくべきである。

台湾所感

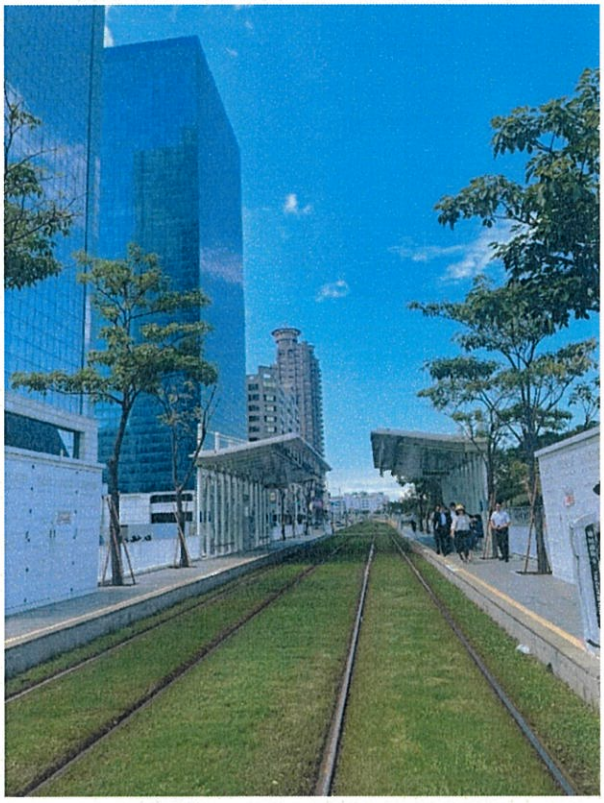
黒田武志

所感：今回の訪台で、特に印象深かったのは、高雄 MRT（地下鉄）と LRT（次世代型路面電車システム）試乗と、沿線周辺の芸術特区、高雄港の視察である。

高雄市 MRT・LRT 試乗および芸術特区視察に基づく神戸市のウォーターフロントへの提言

1. 高雄市の MRT・LRT システムの概要

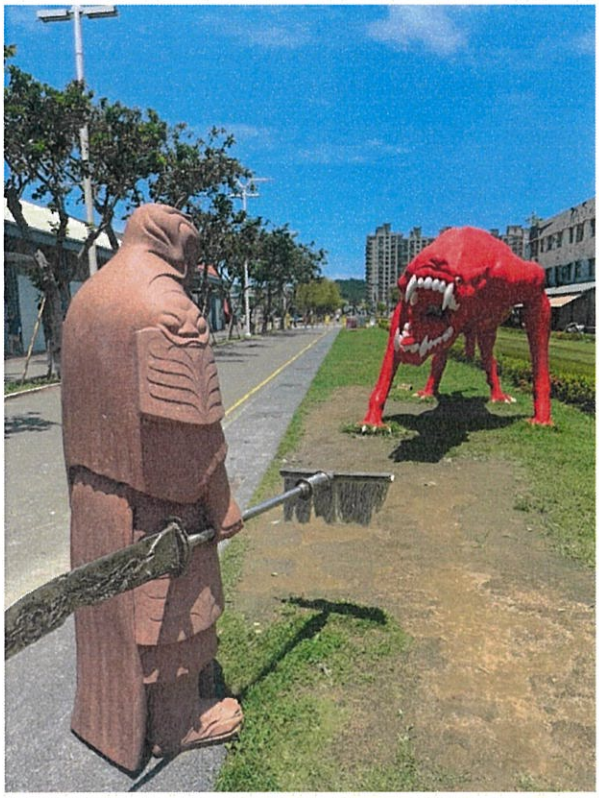
高雄市の MRT（地下鉄）および LRT（次世代型路面電車システム）は、都市交通の利便性を向上させるとともに、地域の経済および文化の活性化に寄与しています。MRT は高雄市内を効率的に結び、主要な商業・居住地域へのアクセスを改善しています。一方、LRT はウォーターフロントエリアを中心に展開されており、観光客や地元住民の移動手段としても利用されています。LRT は地上を走行するため、周辺景観と調和し、地域の魅力を引き立てる重要な役割を果たしています。

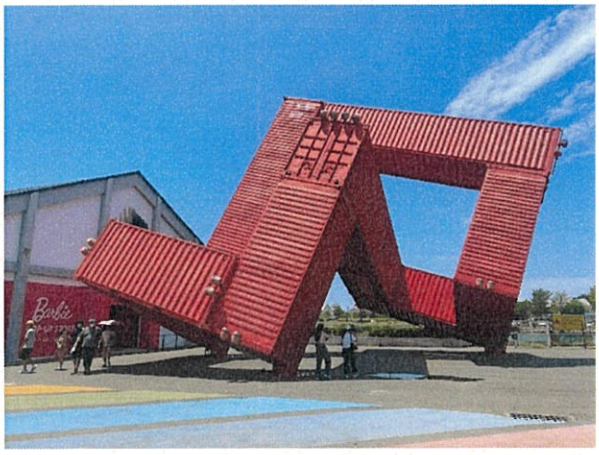


2. 沿線周辺の芸術特区視察から得られた知見

MRT および LRT 沿線には、芸術特区が数多く設置されており、高雄市はアートを通じた地域の活性化を積極的に推進しています。これらの芸術特区では、公共アートやアートイベントが頻繁に開催され、地域住民と訪問者が文化的な体験を共有する場として機能しています。ウォーターフロントエリアに位置する芸術特区では、海を背景にした壮大な景観がアートと融合し、訪問者に独特の感動を与えています。

2.0
Pier-2 Art





3. 神戸市のウォーターフロントへの応用

高雄市の事例を参考に、神戸市のウォーターフロント開発に以下の点を応用することが可能ではないか。

①MRT・LRT の導入によるアクセスの向上

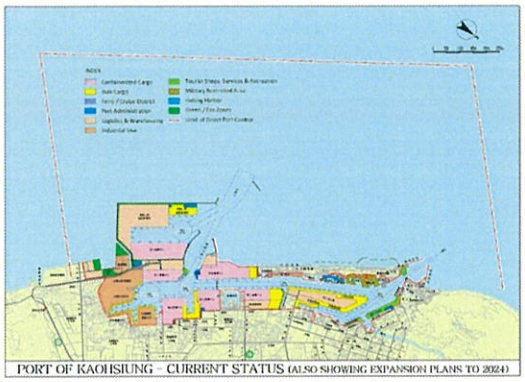
現在、神戸市においては、連結バスが運行されているが、将来的にウォーターフロントエリアへのアクセスを改善するために、MRT や LRT のような持続可能な交通インフラの導入をより積極的に検討すべきだと思う。これにより、地元住民や観光客の利便性を向上させ、エリアの活性化を促進することが期待されます。

②景観と公共アート、文化イベントを通じた交通インフラの調和

神戸市において、高雄市 LRT の事例のように、交通インフラと景観の調和が重要です。神戸の独自性を維持しつつ、ウォーターフロントエリアの環境を最大限に活かし、公共アートや文化イベントを通じて地域の魅力を向上させることで、国内外の観光客を引き寄せることができます。これにより、神戸市の都市発展を効果的に推進することが可能だと感じた。

TIPC（Taiwan International Port Corporation 台湾港務株式会社）と神戸港について

神戸港の現在の最大水深は 16m である一方で、近年のコンテナ船の大型化に対応するためにはさらなる水深の確保が求められています。比較対象として、高雄港の最大水深は 22m に達しており、これが国際港としての競争力を高める要因となっています。


PORT OF KAOHSIUNG – CURRENT STATUS (ALSO SHOWING EXPANSION PLANS TO 2024)

1. コンテナ船の大型化への対応

近年、世界的にコンテナ船の大型化が進んでおり、これに対応できる港湾が国際物流のハブとしての地位を確立しています。16m の水深では、超大型コンテナ船が神戸港に寄港する際に制約が生じる可能性があり、国際港としての競争力が低下するリスクがあります。このため、18m の水深を持つ新たなターミナルを整備し、超大型船に対応できる能力を持つことが神戸港の持続的な発展には不可欠であると改めて感じた。

2. 既存ターミナルの限界

現在のターミナルの水深を深くする改修には、既存のインフラへの影響や工事期間中の運用制約が伴うため、運用の効率性が低下する懸念があります。これに対して、新たに 18m の水深を持つターミナルを新設することで、既存の運用に影響を与えることなく、より早期に大型船への対応力を強化することが可能となります。

3. 国際競争力の維持と強化

高雄港など他の国際港との競争力を保つためには、神戸港も将来的には同等のインフラ整備が必要ではないか。18m の水深を持つ新ターミナルを整備することで、超大型コンテナ船の寄港を促進し、国際物流のハブとしての地位を強化することができます。これにより、神戸港は国際貿易の重要拠点としての役割をさらに高め、地域経済の発展にも貢献することが期待されます。

以上